

会 議 録

会議名 (審議会等名)		相模原市立博物館協議会		
事務局 (担当課)		博物館 電話 0 4 2 - 7 5 0 - 8 0 3 0 (直通)		
開催日時		令和 7 年 1 0 月 2 8 日 (火) 午前 1 0 時 0 0 分～午後 0 時 0 0 分		
開催場所		博物館 1 階 小会議室		
出席者	委 員	9 人 (別紙のとおり)		
	その他	3 人 (別紙のとおり)		
	事務局	4 人 (並木館長、外 3 人)		
公開の可否		☒ 可 ☐ 不可 ☐ 一部不可	傍聴者数	3 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
議 題		(1) 相模原市立博物館活動評価(案)について (2) 常設展示室リニューアルの構想案について (3) その他		

議 事 の 要 旨

(1) 相模原市立博物館活動評価書について

相模原市立博物館活動評価書について、事務局より説明を行った。

(岩野会長) ご説明ありがとうございます。ただ今、事務局の方からこの活動評価書案について、説明いただいたわけですがけれども、皆さんからの質問、コメントを受ける前に、私の方から簡単なコメント、情報をお伝えしたいと思います。

3ページから4ページのところで、令和6年度としてのその活動評価の統括ということで、前年度の指摘されたところについて、どういう風に改善されて、こういう風に課題をクリアしたというのがあって指摘事項が5つに分かれて書いてある。これは非常に簡潔に書かれているけれども、いわゆる、私たちが指摘した、いろいろコメントを出した中で、わずか5つであったとしても、かなりクリアになってきているという点で、私は非常に評価したいです。私たちの意見が全部クリアするわけではもちろん決していないというのも理解できますけれども、その中で、前年の意見を受けて、今年度はこれだけ一応は直しましたっていうことのコメントだと思っております。

特に、この指摘事項の1番、2番、これは大きな問題なわけですがけれども、この収蔵スペースの問題ということで、新たな市内の公共施設等の確保とか、あと事業なども進めていますよというお話ですね。とても大きな問題だと。

合わせて2番のところですね。この常設展示の全面リニューアル、これも後の議題の1つになるわけですがけれども、これも毎回毎年のように常設展示のリニューアルという私たちからの意見っていうのは出た課題ではあったなと。私も出しましたが、それがやっと動き出したっていうのがこう見えてる。そういう点でも1歩前進したコメントという風に考えます。

あと、この3番、4番、5番についても同様だと思いますね。細かいとあれだけれども、少しずつ直して。もう1つ言わせていただくと、この3番ですね。ここはせっかく学びの収穫祭、とても好評だという、先ほど河尻さんからお話がありましたけれども、私もここはできれば、せっかくこういうものを、イベントをやったとしても、後でどういうことをやったか、やっぱり印刷物として欲しいという、私も意見として出した人間の1人なんですけれども、やっとなんていう形で印刷物として後で見ると、やった人についても、実績、業績評価という点でも残ると。いろんな意味でやっぱりこう印刷物が必要だと思ってたので、ちゃんとこういう風に明らか

にクリアになりましたということは本当にいいことです。それから、5ページ以降は、お話があったとおりになります。

それで、ここにお集まりの委員の皆様からいただいた有識者意見ですね、12ページ以降ずっと出てるんですが、私はこれを見て今回1つ驚いたことが、まずはとても細かく皆さんから多くの、まさに多岐にわたるコメントをいただいたかなと。非常に幅広く、多くの委員の方がいらっしゃるからいろんな形でコメントが出てきたんだと、これを読むと本当になるほどと思うことはとても多いわけですから、そんなことをちょっと感じました。それについての個々の質問とか、追加のコメントなど、またいろいろあるかもしれませんが、またこの後、皆さんからお聞きできればと考えています。

最初にいろいろと長々と話をしましたが、早速、今事務局から説明していただいた(1)について、委員の皆様から何か全体的なことでも結構ですし、個々についての意見でもいいですし、有識者意見として、ここはどうなんだ、追加意見、いろいろ含めてで結構ですので、発言していただければと思います。いかがでしょうか。全体を通じてでも、個々の話でも結構だと思いますが、何かございますでしょうか。

(佐藤委員) 佐藤です。よろしくお願いします。この委員も1年目、2年目になって、色々な、今回もポケモン天文台の案内をいただいて、色々なご案内をいただけたので、この協議会を通してまた博物館を訪れる機会をたくさんいただいたので、博物館のことが身近に感じられて、去年は実は、ほとんどコメントを書けなかったんですが、だいぶ委員を務めさせていただいたので、いろいろ思うところを書かせていただいたなというのが、先ほど会長からありましたけれども。あと、いろいろな組織から出ているので、自分の組織と個人の思いもあると思いますが、組織のバックボーンを抱えたところでもいろいろ書かせてもらえたのかなと思うので、いろいろな方が委員になっているという意義はとてもあるのかなと思っています。

収蔵庫の問題で、最近話題になった新聞記事なんかを目にしている、思うところをお話させていただくと、動物園の役割が変わってきたというのが結構新聞で報道されていて、今までは見せるということに特化をしていて、動物本来の行動特性とか、そちらよりは、来場者を楽しませている、本来、動物があまり行動しないような、もしくは狭い敷地内で飼っていたというところ。それから、ワシントン条約も規制が厳しくなっていて、これからは残念ながら象やキリン等の大きな動物や見せられる動物もだんだん減ってくるかな。その代わり、本来動物が生息していた環境を維持、そ

れを生活している様子を見せていくなんて話もあって、時代の流れかなと思ったんですが。

前置きになってしまいましたが、収蔵庫は必ず有限で、無限ではないので、同じように考えていくと、この博物館の役割は当館の使命で、5ページに書いてあるとおり、地域の歴史や文化、自然に関する資料を調査研究していくという、相模原市というところをですね、市民も含め、県、県内、県外の人も含めて、相模原市のことをよく知ってもらって、愛おしく思ってもらい、この形を継続もしくは発展していきたいというところにつなげていくところかなと思うので、やっぱり何を残していくかっていうところは常に変わっていくとは思いますが、やはり有限だっていうことも含めつつ、私もデジタル化とは書いたんですけど、資料のデジタル化、ただ、実際に生活の道具、古い道具を見て触るのは難しいですね。見ることによって実感として湧いてくるっていうこともあるので。デジタル化は進めつつも、でもやっぱりものとして残して、実際に目で見るということの大切さもあると思うので、その辺は難しいなと思いつつ、使命を踏まえつつ、収蔵庫の問題を踏まえつつ、何を残していくのか、何を見せるのか、これはデジタル化でいい、これはでもやっぱりものとして残した方がいいっていう、その辺のやっぱり軽重をつけていくっていうところがとても大事なかなと思って、一言言わせていただきました。

(岩野会長) ありがとうございます。常設展のリニューアルの問題もちょっと含めてということだと、次の議題としても先にお話していただいたかなと。いかにデジタルを利用した形でより新しいものができるかっていう大事なこと。今の意見について何か事務局からございますか。

(事務局) ご指摘のとおり、収蔵庫は必ずいっぱいになってしまう。これは避けられないので、第2収蔵庫を作る場所、予算とかがあればいいんですけども、なかなか厳しい。かといって、博物館もいっぱいになったからそれ以上資料収集しないっていうのは、それは博物館としての使命をもう全く果たしてないということになりますので、今までは、わりと余裕があった頃はかなりいろいろな資料を収蔵してきたんですけども、ある程度、収集する資料を絞り込んで、例えば他の博物館と連携しながら、うちはここ集めるから、こっちはそちらでお願いねみたいなような資料の収集の仕方もあるのかなとは思っております。

やはり、デジタル化とか色々ありますけども、博物館は実物資料を収集して、それを未来、将来に残すというのが役割です。デジタルは今非常に

技術進歩していて、場合によっては絵画なんかも実物よりも細かいところまで見えてしまうのですが、いろいろな将来的な研究とかも考えると、必ずしも写真だけ見ればいいというものじゃありません。絵画とかの場合、材質とか、絵の具の化学組成だとか、そういったものはデジタルでは測定できませんので。例えば古文書とかも最近技術進歩していますので、紙資料から年代測定ができるようなところまでできていますので、写真が見えればいいというものではないので、やはり博物館である以上、実物資料を収集するということ、そこはこだわっていきたい。ただ、スペースの問題があるので、もうこれは非常にジレンマですね。博物館は実物を集めなきゃいけない、でも、場所が限られてるっていうことで、何かいい方策があるわけではありませんけども。1つには、できるだけ絞り込んでというのも変ですけども、どういう資料を集めていくのかというのを明確にして、もし収蔵庫の他で活用できる場所があれば、積極的にそれを活用して、当然増えてきますので、増えてく資料に対応していければなということを考えています。

（岩野会長）関連して、何か委員の皆様から意見はございますか。特になければ少し先に進みながらということで議論を進めたいと思っていますけれども、何か他の皆様からご意見とかあればいかがでしょうか。

はい、浜田委員お願いします。

（浜田委員）平成6年度の評価については、会長のご意見に尽きるかなと思います。

今、資料収集のお話が出ましたが、昨年30年で館内の収蔵量が満杯状態に近いという風に聞いていまして、そういう中で、保存環境に問題があるにしても、新しい収蔵場所の確保に尽力されたというのは評価できるかなと思っています。

今、河尻さんがおっしゃいましたけど、全国的には博物館で資料の廃棄とか処分というのはやっぱり大きな問題になっていて、実は私、多摩市でその資料の廃棄基準というのを作るということに携わりまして、最低限捨てないという基準を作ったんですけど、将来的にはそういうことも必要になってくるかなと思いますが、相模原では、多分、余程壊れた資料でなければ廃棄というものは想定できないと思いますので、極力保存ということ、を前提にですね、収蔵庫の確保に努めてほしいなと思っております。

それからもう一点が、プラネタリウムのリニューアルが実現できてとても良かったと思っています、さらに来年度から常設展の改修ができるということで、これは大変喜ばしいと思っています。

30年も同じ展示が続くっていうのは、やっぱり学術的にも資料的にもいろいろ問題が起きていて、私もさっき展示室を実見してきたのですが、やっぱり、このままでどうなのかなというのはあったので、遅いと言えますけども、これからの展示改修に期待したいと思います。

あと一点だけ。7ページの定例評価の表なんですけれども、前にも意見を言ったかもしれないですが、入館者数は実数で平均値を出しているんですが、休館も結構あったので、1日あたりの入館者の比較の方がより客観的かなと思いましたので、その辺をご検討いただければと思います。以上です。

(事務局) 今、浜田委員の方からご指摘のあった1日あたりの入館者数について、評価書の方には反映ができていない状況がありますが、お配りした年報の10ページの下段に、開館からの統計という表がございまして、1番右の列が1日あたりの平均入館者数となっています。参考にこちらをご覧ください。

(大貫(英)委員) 資料の収集のことで、収蔵庫ね。埋蔵文化財の資料といわゆる民俗資料、これは大きな課題になっていると思うんだけど、これも前に言ったとおりで、埋蔵文化財の発掘資料は、これは行政資料であって博物館資料ではない。実物を壊す代替措置として記録保存をして、そこから出てくる資料を保存するというのは行政なんです。教育機関の博物館の役割ではない。これは文化庁もそれを認めていて、埋蔵文化財センターというものを作ってそこで収蔵するようにという、あるいはその資料の分別についても、ここに意見はあるけれども一応廃棄してもいいよとか、場合によっては土の中入れちゃっていいよなんて作りました。

いずれにしても、博物館の収蔵庫に行政資料があるということ自体は、これはいけないこと。これをきちんと選別して、博物館としてきちんと市民の文化の礎となるものを選定して博物館が責任を持つべきで、同じ行政の中にある文化財課と協力をしながらね。将来の方向としては常に国もそういう風に分けてるわけだから、やってほしい。

民俗資料についても、これは文化庁が歴史民俗資料館構想というのを立てて、市町村には500万、都道府県には1000万という補助金を出して、消えゆく民俗資料を収集して保存をして、市民あるいは県民に公開しようっていう、これ行政資料として収集をやってきた。相模原市の場合も、歴史民俗資料館構想に乗ろうという時期もあったけれども、それはできなくて、とりあえずは博物館の中でということにしているの。

文化庁がどういうことか、知らん顔をしているんだけど、元々ね、行政資料としてやったものですから、博物館資料として、この地域の調査研究の中でこれが市民に伝えていくものとして選別されたものではないので、これもきちんと文化財課と協議する、あるいは文化庁に、場合によってはね、歴民資料館はどうするんだと、全国で民俗資料館は市町村合併によってなくなって、それを売られたりしているというのは、実際、いろいろ新聞の方の話題にもなってるし、本市の場合もそれに近いような津久井旧4町の資料館のものが特別収蔵庫に収蔵されて、いっぱいになっているような状況があるわけで、これはもうきちんとね、分けるべきだと。

自然資料は、たまたま、そんなにはないけど、基本として本市のこの博物館は、いわゆる地域博物館としての足腰を持った博物館として活動していこうよっていう活動から来ているわけだから、国の研究機関や都道府県が明治100年で作った博物館とは違うわけで、何もあちこちから集めてくる必要はないんですね、基本的にはね。それは地域にあるんだから、現地、現地収蔵、現地活用、現地育成、これが大原則で、どうしてもここに置きといたんではなくなってしまうっていうものについてのみ、それはきちんとした収集をして、もう本当は、埋蔵文化財もそうだけど、人間の勝手に壊れてしまうことをその動物や植物にお詫びをしてですね、そして改善の策として持ってくるという、そういうのがこれ今ね、一般的な、さっき動物の話もしてましたけど、方向性にあるわけだから、それはやっぱりその方向の中でやっていけたらいいのかな。自然の方はそういう認識も持っておられるからね、あれですけど。本県でも、横須賀市のようにね。それぞれそのフィールドを持った博物館の分館的なもので、その中で海浜なんかをね、そこにある動植物を守っていくってことをやっているわけで、市民に親しんでもらうっていう展示をやってるわけで、そういった展望を持ってやっていただくということを、ぜひお願いしたいと思います。

(岩野委員) これは事務局への委員からの要望という風に、今すぐこれはなかなか難しい問題かと思いますが、でも、この指摘は以前から出ている、その1つだろうと思っていますので、メモでもしといていただいてですね、ぜひこれは館長含めて事務局の方からできるだけ上の方へ要望を出していただきたい、そういう風に考えました。よろしくお願いします。

(大貫(英)委員) 世界的な問題になっていますね。いわゆるアイヌの人骨についてもそうだし、オーストラリアのアボリジニのいわゆる骨格標本もそうですし、もう大英であろうと日本の東大であろうとお返しするという、そうい

う方向性があるわけです。やはり収集というのは、かつての植民地主義的なものの中でやってきて、我が国の国立の研究機関はそういうことをやっていますけど、それも今、国立の研究機関も返却をしようとしているわけで、本市の場合は、自然は丹沢があったりするわけだから、そういったところで、本来はそこで、やっぱり、ただ、そこに何があって、それが科学的などういう意味があるのかというのが、学芸員がきちんと評価をして、それを広く知っていただいて、それを大切にさせていただくという、地域の人を守るんだ、これは歴史資料であっても埋蔵文化財であっても、民俗資料であっても、それが大原則なわけです。おそらく博物館を作った時からそういう認識を持っているわけだから、それをぜひそういった方向で、行政の下請けに甘んじる必要はない。ぜひそれはお願いしたい。

(岩野委員) ありがとうございます。これに関連して、今の、例えばここはあくまで相模原市というので、いわゆるローカリティーに富んだ博物館が、その中で、いわゆる地元で見つかった、いろいろ埋蔵文化財であるとか指定の産物であるとか、そういうものとの関わりということだと思えるんですけども、私は、そういうものを収集するというのは、それはそれで大事だし、いろいろな方法があるというのはもうもちろん皆さんわかっているとおりだと思いますが、だんだん、これを収集していけば増えていく。

だからその収蔵場所が問題だということになると思うので。ただ、やはり今後は、先ほどちょっと浜田委員からもお話があったように、処分と廃棄、この博物館の目的、目標にそぐわないと判断すれば、そういうことも考えていかないと、一方的にこれは増えていくことになるわけで、減るという発想は多分あまりない。集めるという発想はあるんですね。それが博物館の今までの流れのようにも感じています。それでも、今後を見据えた時に、やはり、もちろん収集は大事なんですけども、一方で処分、廃棄という問題も場合によってはあっていいものかもしれないですから、そういうもののご検討をいただければなという感じですね。そのためには、じゃあその廃棄処分の基準なり、その評価、どういうものをもってというガイドライン等がまた必要になってくるとは思います。何をもってこれは、廃棄する対象か。そういう1つのガイドライン作りも含めてですね、今すぐでなくてもご検討いただいた方がいいかなと思います。せっかくこれは寄贈された大事なものだ。でも本当にそれは必要か、もういないものなのか、ある程度、学芸員の専門家の方たちがお分かりになっていらっしゃる。ですから、そういうものについても1つの基準作りもご検討いただいて、その上でやっぱりいないね、となれば、それはそれで集めるだけ

なのかもしれません。そういったことも違う視点からという見方では大事なことかなと思います。将来に向けて、そんな風にご検討いただきたい。
では、他に何かございますでしょうか。はい、では、根岸委員。

(根岸委員) 市民目線での雑談とは言わないんですけれども、ちょっと聞いてみたかったことがあるんですけれども。

私、朝日新聞を取ってしまして、10月20日の夕刊にですね、防災植物という記事が載っていたんですね。その防災植物の記事では、もうほんとに身近にあるシロツメ草とかカキドオシとか、そういう、私も知らない植物もあったんですけど、そういうものがいろいろな災害時に普段からこう目を向けて食べられるんだっていうような認識を持っていることで、そういう災害時にこう役立つんじゃないかというような記事で、実際に、これは高知県の例だったんですけど、そういうのが載っていて、そうは言っても、専門知識を持たない一般市民がこれは食べられそうとか、これはっていうのは、ちょっと難しいところではあるので、そういうのは、やはり博物館の役割ではないんでしょうけれども、でも、博物館に聞けば、専門のそういう知識を持った学芸員さんなりが教えてくれるんじゃないかとか、そういう資料があるんじゃないかとか、そんなことを、思い浮かべてしまったわけなんですけれども、そういう時というのは、博物館に聞いてみればわかるんだというようなことは、有りなのか、無しなのか、という風に、市民目線で専門的なことは知らないものですから、そういう風な相談機関として博物館というのは利用できるのだろうかというあたりをお聞きしたい。

(事務局) 私も植物が専門ではないのではっきりお答えはできないんですけれど、ある程度だったらお答えすることはできるかなと思います。例えばキノコだと、もしかしたらちょっと難しいのかなと。キノコはほんとに専門家ではないと。それでも、そのエリアの専門家でないと、キノコは結構難しいんですよね。そのエリアの専門家であっても、よそに行くとその知識が通用しないとかというのを聞いたことがありますので。

ただ、植物もやはりあって、同じようなことが言えるのかもしれません。ただ、一般的なことはわかりますし、我々は、他の分野に関してもそうなんですけれども、自分がわからなければ、あそこの博物館のあの人に聞けばわかるという、要は、たらい回しではないですけど、ネットワークで逆に回ってくることもあります。何々さんから聞いたんですけどって、こっちに回ってくることもあります。そういうネットワークがありますので、

とりあえず言っていただければ、答えられなければ、わからないのはわからない、でも、あそこに聞けばわかりますよみたいな、次につなげる検討はできると思います。

(根岸委員) なるほど。そうしたら、そういうことを聞いた上で、何か、なんでしょう、防災植物お料理教室みたいのが来たんですけれども。はい、ちょっと知識が足りないので教えてくださいっていうことは可能なんですか。

(事務局) 受けれるようでしたら受けますけども、無理なようでしたらちょっと難しいので。もし他のふさわしい方がわかっていれば、あの方に聞いてみてご相談してみたらいかがでしょうか、みたいなことは。そこまでは言えると思います。

(根岸委員) わかりました。大変ありがとうございます。

(事務局) そうですね。割とそういう素朴な疑問っていうのは、実際にたくさん現場では受けていると思いますので。先ほどありましたとおり、わからないことはわからないってことがありますし、この本を調べてみたらいかがですかとか、そういった学習のお手伝いができますので。その辺はお気軽になんでも聞いていただくというのは基本なのかなという風に思いますので、それは学芸員の役割の1つかなという風に思います。

(根岸委員) ありがとうございます。

(岩野会長) 特にご質問の植物関係については、もちろん、この相模原市立博物館でも、本当に植物の大専門家もいらっしゃいます。県の小田原の県博あたりもいらっしゃいます。大体他のローカルの、割と動物、植物関係の学芸員、専門学芸員の方は多いと思いますので、一応問い合わせて見られると。

(佐藤委員) これもちょっと失礼かもしれませんが、最近、G o o g l e のカメラで撮ってわかるっていうのがありますよね。あれは、精度はどれぐらいのものなんですか。どんどん進んでいくんだと思うんですけど、結局、資料を集めて、それを、資料から見たものを、将来的にはちょっとどうなのかなと、すごい勢いで生成A I なども進んでいるんで。

(根岸委員) でも、この最後の方に、A I は間違うかもしれないと書いてあって、そ

れがなんかすごく信頼できるのかって。

(岩野会長) やっぱりたくさんの資料が、データが多ければ多いほど、より正確。

最初のうち、何年も前のG o o g l eじゃなくて、バイオトームとかっていうやつなんかも使ってみると全然当たらなかった。植物も昆虫も全然違う。最初のうちはもう本当にダメだと思っていました。最近はやっぱりデータが蓄積されてきて、だいぶあたるそうですよね。ただ、100パーセントではない。

(岩野会長) ありがとうございます。他に何か。皆様から。

(大谷委員) 最近クラウドファンディングをしたっていうのをXのタイムラインで見、その数年前のやっぱり科博の方でも、やっぱりクラウドファンディング、資料補修とかのためにしているというのを見たんですね。相模原市は博物館の予算をちゃんとつけてくれてるので、ありがたいなって、ちょっとふと思ったものですからね。クラウドファンディングするぐらい、国立でも、そうやって予算取ってもらえないんだってことに、すごく衝撃を受けたんですね。つい最近なので。リニューアルも含めて、プラネタリウムも新しくなったっていうところも含めて、そうやって予算を付けてもらえるってことが、本当にありがたいし、博物館に足を運びたいなという風になるかなとも思ったりもしたんですね。

30年前にここの博物館に初めて訪れた時にすごく感激したのが、資料に触れることだったんです。土器に触れるっていうことにすごく感激して、それで、学芸員になりたいなと思って、大学でも勉強してたこともあるんですけども。私もちょっとこっちの意見の方にも書かせてもらったんですけども、目の目を見てない、でも触っても別に大丈夫かなという資料はちょっと触れるように。実際、子供とかって触覚とか感覚で養われるものってすごく大きいと思うんですね。目で得られる情報だけじゃなくて、質感であったりとか、実際に土器ってこういう感じなんだっていう風に触れることですごく感動を覚えるかなとも思うので、そういう風に活用していただけるとね。触るとやっぱり痛んでしまうっていうところもあるんですけども、ちょっとやっていただけると。リニューアルの時にも触れるような、実際に体験して、その体験する喜びっていうのを、子供たちが持っていただけのような展示をしていただけるとありがたいと思います。本当はリニューアルの話でした方がよかったのかもしれないですけども。

(岩野会長) ありがとうございます。次の議題かもしれません。でも、これは、ちゃんと伝わっていると思います。ありがとうございます。他に何か。

(岩野会長) 私の方から一つ。評価の方に戻るんですけど、11ページのところで、令和6年度の評価のところで、数値として一覧表が出ているんですが、大体高評価だなというふうに考えるんですが、その中で、毎回、10ページの令和5年度もそうですが、一番下の4、令和6年度でいうと3-2aでしょうか、講師派遣や資料貸出による学習支援というのが、いつも少し落ち込んでしまっているのを感じている。毎回の傾向にある。今回は2.9ということで、3を標準と考えると、それよりほぼ同じぐらいか低い。ですから、ここでやはり問題となるのは、なんでこういうふうに低いかということなんですかね、6ページのところに出ているわけですが、6ページの3番のところです。その貸し出しと広報、こういったところの取組が少しまだ評価に繋がってないのかなという思いがします。前の協議会でも貸出の議論が少し出ていたかと思います。佐藤委員からも含めて記憶してます。それは、まず貸し出しキットが少ない。それから、貸し出しキットを使おうと思った時に、他の学校とちょうど同じ単元を同じ時期にあるので借りることができないとかが私の記憶の中ではあるんですが。ですから、せっかくあるキットがうまく活用できていないとか、そういう事情が見えた。ですから、これは博物館側だけではなくて、やはり現場側の、小学校、中学校、場合によっては高校も含めてですが、そういった学校関係者とのコミュニケーションですかね、連携を取っていただいて、さらに、博物館にはこういうものがあるという広報ですね、毎回多分同じだろう、あるから使ってくださいというスタンスだけでは、なかなかここは高評価に繋がっていかない問題かなと思っています。ですから、まずどういうものがあるって、それを増やすことができるのか。あと、使う時期についても学校側に検討していただけないのか。いろいろなものを含めてですね、もう少し進めていただけると少し違うのかなという感じがしてます。事務局としてはいかがでしょうか。

(事務局) 学校との連携は、今までいろいろなご意見もいただいていた中で課題でもあったので、今年、「イーネットさがみ」という学校に特化した情報のやり取りができるものが変わって、今まで学習キットにこんなものがありますよという掲載ができていたのが、できなくなったりとか、少し変わったりはしてるんですけど、今回新しくやらせていただくのは、プラネタリ

ウムが新しくなったことによって、学校の校長先生宛に連絡をさせていただいて、1度見に来ていただくという試写会をやる予定なんです。

その時に、こういうものもありますよって言うことが言えるといいなと、考えておりますので、こちらからPRもさせていただきながら、学校の方にも使いやすいものがたくさんありますよということを知っていただくことが大事だと思うので、そこから始めたいと思っています。

(根岸委員) その校長先生なりに周知するやり方なんですけど、紙ベースで一覧表のようなものがあって、こういうキットがありますよということですか。

(事務局) そうです。あとホームページです。博物館ホームページの方に掲載をさせていただいているので、そちらをご案内するとか。そういう形でやりたい。使い方というか、こんなものがありますということがまず第一だと思うんですね。例として使い方を説明してもいいとは思いますが。

(根岸委員) 動画みたいなものはないんですね。

(事務局) 基本的にまだそこまでは用意していません。

(岩野会長) わかりました。ありがとうございます。何か他にご意見等ございますでしょうか。いろいろまだご意見があるかもしれませんが、ひとまずはこういう形で評価書をまとめていただきましたので、これで、(案)は取るとか、その辺はよろしいですか。一応認めていただいたら。

(事務局) はい。この協議会の場で、これを承認ということであれば、(案)を取って、正式な評価書として公表の手続きを踏んで公表を進めたいと思います。

(岩野会長) そうしましたら、一応、この(案)というのが今ついてるわけですが、一応皆さんが目通ししていただいたということで、お認めいただいてよろしいでしょうか。ありがとうございます。それでは、あともう1つ(2)ですね、常設展示室リニューアルの構想案についてということで、これはもう1つの資料に、これについてまずは事務局から説明をお願いします。

(2) 常設展示室リニューアルの構想案についてについて

常設展示室リニューアルの構想案についてについて、事務局より説明を行った。

(岩野会長) ありがとうございます。ただ今、常設展示室のリニューアル計画についてお話をいただいた。これについて皆さんは多分いろいろな思いを持っていらっしゃる。自由に何か言っていただければと思いますが、いかがでしょうか。ここはこうしたらどうかとかいろいろな意見を含めてで結構です。ご意見いただければと思います。

(浜田委員) まず、この構造を理解する上で確認したいことがちょっと何点かあるので、質問させてください。最初の2ページの部分で、デジタル技術の活用ですとか、それから(4)の広域交流の拠点博物館化とするという点につきましては、2022年の博物館法改正に則った、これがやっぱりあるべき視点なのかなという風に理解しました。

その他に、リニューアルの方針のところなんですが、現在の展示は基本テーマを一応設定していて、「川と台地と人々の暮らし」になっていますが、リニューアルではそれが継承されるのかどうかというのはちょっとわからなかった点がありました。

それから、これは書き方なんですが、天文展示が展示計画の力のところに入ってますが、多分、概念としては、自然・歴史展示と天文展示分けて計画されているのかなと思うんで、その辺はどう考えるかということ。

あとは内容に関してなんですが、まず展示構成の視点。今の展示、結果的に分野別展示に近くなったんですが、計画段階では、学際的あるいはその総合的な展示を目指すということで一応協議はしていた経緯がありました。今回の展示については、これは分野別でいってしまうのか、あるいは学際的視点は含めるかどうか、これ大事だと思いますので、その辺、もし基本方針が何かあれば教えていただきたいと思います。

もう1点ですが、今回のリニューアル、予算がそれほど多くないので、どこまでできるかっていうのは多分ポイントだと思うんですが、例えば壁面は撤去できるのかとか、大型の壁面とか大型の模型は残すのか撤去するのか、それによって随分この計画が変わってしまうと思いますので、その辺を確認させていただければと思います。

(事務局) 大きなテーマですけれども、山地が入ってくるので、ちょっとそれは考え直す必要があるのかなと考えております。テーマを作るのであれば、それにふさわしいキャッチフレーズが必要になってくるかなと思います。

あと、学際的と分野別ですけれど、こちらは、今ちょっと細かいところを詰めている状態ですが、なんとなく分野別になるのかなと思っております。

先ほど指摘いただいた展示計画の中で、アからカまで、自然・歴史展示室と天文展示室が入り込んでいますが、これは自然・歴史展示室がカからオで、天文展示室がカということで、それぞれ、部屋としては別ですけども、展示のリニューアルの方針としては一体として進めていきたいと思っています。

あとは、壁面とジオラマですね、残すものに関しては残していく、各分野ですね。大きなもので残すものは残すということで、計画でも撤去するものは撤去すると考えているんですが、4テーマのところは特定天井の関係で全部壊さざるを得ない。

補足で申し上げますと、今、第4テーマになっているジオラマがあるところですが、この部分が、実際、展示室をご覧になっていただくとわかるんですけど、ドーム型の天井になっていて、そこに空が描かれているような状態になっています。あれ自体が特定天井という、まずあれを解体せざるを得ないという状況なんですね。そうすると、結局ジオラマもそれ一体的な展示になっているということと、その解体するときに足場を組まなきゃいけないっていう状況がありまして、非常にもったいないなっていうところはあるんですけども、現状のジオラマは全部解体せざるを得ないというような状況です。解体という点で言うと、そこが1番大きなところになってくるかなという風に思います。その他のコーナーにつきましても、仕切りがあったりとか、後付けの壁があったりとか、展示ケースがあったりというところもあります。特定天井の工事が令和9年度で、その前の段階に天井の設計が8年度に行うということですので、その辺のどこを撤去するのかということについては、この構想案とほぼ並行して考えていくようなスケジュールになってくのかなという風に思います。

あと、浜田委員が言われた最初の大きなテーマ、それを構想の中に入れ込むのか入れ込まないのかというところになってくと思いますが、現状ではそれが入ってない状況になってますので、その辺は内部で検討させていただいて、構想の段階でそれを謳うのかどうかというところは検討させていただきます。

(浜田委員) わかりました。なんとなく、この構想案見た時、今の展示レイアウトと似てるなと思ったもんですから、多分そういう大型展示物に規制されてこんな風になったのかなと思ったので、ちょっと確認させていただきます。

(岩野会長) 私も実はちょっと同じことをですね、この図の6ページのところですかね、その各テーマの配置、これを見ても、いわゆる今とどこが違うんだと

いう思いが正直な話ですけども、ちょっと感じたところがありますね。

各コーナーの区分けというのは今とほとんど変わらない。その1つの枠の中でどういう展示に変えようかという、そういう捉え方という風を取ったんですけども。限られた期限と予算の中でやれるのは限界があると言われてしまうとそれまでなんですけれども、もう少し、例えば自然がもっと前へ出てくるとかですね。この同じところでなくてもいいかもしれないし、いくつかの、場合によってはこの2つの真ん中の壁が取り払えるとか、いろんな発想があってもいい中で、なんか枠だけは決めていて、その中でじゃあどういふものができるのかという考えなのかな、そんなふうにとちょっと受け止めてしまう。必ずしも、同じ、似たようなコーナーをやるな、自分のコーナーに当てはめなきゃいけないという風には思わない方が、私はより刷新感が出るだろうという感じはちょっとしています。今はあくまでも展示構想案を練っているところだと思いますので、本当にこの現状の中で仮に枠を残すにしても、もうちょっと違う、配置の変更ですかね、そういうことを検討いただいた方が、新しきが出るという風に考えているところですね。

それと、あとは最初のところに戻りますけれど、ページ7のこの事業計画ですね。今回初めてこの計画案の年次計画というのが示されたわけですけど、わずか3年、この後3年ですかね、その計画案も含め、実際の展示製作を1年間でやるという計画なんですけど、とても時間が短いというのを感じています。だからこそ、逆にしっかりと相当細かいところまで展示計画をしっかりと詰めとかなないと、かなりバタバタとなるという疑問もあります。あとはメッセージ、この中で、2ページのところですが、この対応すべきテーマということで、1から4まである。先ほども浜田委員からもちよっとお話があったんですが、この政令指定都市に相応しい広域交流の拠点博物館としての展示というのはわかるんですね。ただ、これが具体的に、この後の展示計画の説明の中で、どういったところに反映されているのかということが、私にはちょっとまだ正直見えてません。これは具体的にこれから実際の各展示コーナーを具現化すれば見えてくるのかもしれませんが。ここでは謳い文句ではあるけれども、どこの展示がこういうものに、この拠点博物館という風になっているのか、こういうものがもうちょっと見えてくると、新しいものがさらに出るのかっていうのは、ちょっと感じたところです。

それと、あともう1つだけお話ししたいのが、全体を通してなんですけれども、特にこの4ページ、5ページを見ると、各テーマごとにそれぞれのコーナー、ストーリー、コーナー案というのが出ていて、おそらく各学

芸員の方が考えて、このコーナーにどういう展示をしたいのか、案を出してくださいということで、それで練り上げてきたのかなと思っています。

私がお伝えしたいのは、もう少しよりいいものを考えるんだとすれば、いろいろな幅広い意見があった方が、いろいろと、この委員会も同じです。いわゆる多方面にわたる。そのためにはどうするのかというと、例えば市民の代表みたいな方、あと、こういう興味を持っているような、あとは市民研究室に出入りしているような方とかいろいろいらっしゃるわけですが、そういった方々の代表みたいな方から、どういう展示にしたらいいのかアイデアを募るとか、なんかそういうのがあったのでしょうかね。よくわからないですが、そういうのがあると、もっと多角的ないろいろな展示のアイデアや具体的な展示方法も出るのではないかと。もしも、時間がなくて、ここに示された展示、コーナー案、それぞれありますが、これでいきますと言うんだったら、これはこれで生かしておいた上で、実際のこの中でのコーナーの中の展示をどうするかっていう時に、そういういろいろなアイデアを持った方も出していただくような工夫をしていただけると、なおいいものができるという思いがあります。なかなかこれも、限られた予算とか、いろいろ時間とかあるのはもちろんわかりますが、可能な中でご検討いただければ、さっきの触れる展示とか出てくる可能性があるかと。

あと、今回、この最新のデジタル技術を活用と大文句ではあるんですが、このこのリニューアル方針を読んだ中では、どこにそういうものが反映されるのかまだ見えてません。あくまでこれは展示コーナーのタイプですよ。そこはわかるんですが、そういうものをどういうところに生かしていくのかなっていうのがまだ見えてないので、もうちょっとこれがより具体的なこういう設計案になってきたと、ここにはこういうような技術を活用したいみたいなものが触れてくれると、別にこうしろっていうことじゃなくて、ちょっとご検討いただければと思います。

(事務局) いくつかご指摘をいただいているんですけども、6ページのこの平面の配置についてございますけれども、実際のゾーニングはまた改めて基本設計以降に決まっていくのかなっていうところで、このとおりでやるということではないので、あくまでも想定というところに入れさせていただいているというような状況です。

おそらく分野別の展示にはなるのかなというような予測はしております。やはり、リニューアルという性格上、限られた予算の中で0から作り上げるというのはなかなか難しいというところですので、おそらく方向性としては分野別になるのかなと話しております。

それから、展示計画の中の各展示コーナー案ですけれども、こちらも、これはあくまでも案のままという形でいくのかなというところで、これをこのまま基本設計、実施設計にまで載せるとは限らないというところです。こういった内容が考えられるのかなというところになっております。実際その部分をこの構想の中に、書き込むのか書き込まないのかというところについては、またちょっと内部でも議論をさせていただきたいなというふうに思います。

あと、先ほど市民のご意見はどうなのかということでしたけれども、30周年の記念展を9月まで開催しておりましたが、その中でいろいろ市民の方から、博物館の将来についていろんなご意見をいただいておりますので、そういったご意見の中から、展示の中に活かせるようなご意見があれば、そういったものも拾ってですね、この中に入れさせていただければなという風に考えております。

(関委員) す7ません、やはり同じ印象を持っていて、流れの中で、自然にそのそういう状況に触れられていって、「あっ」というような感じになればいいなという、ちょっと漠然としていますけれど、ここはこうこう、ここはこれじゃなくて、ああ、入って、こう行ってずっと見ていったらこういうことが体験できて、よかったなって出てこれるような、そんな、ちょっとね、本当に市民目線ですけど、そういう感じがします。

それと、そういう中で、先ほどご意見がありましたように、私も実際子供たちが、隕石の展示、隕石今触れるんだよとか言って入ってきたのを具体的に見てるんですよ。やはり、自分もそれで一緒に触ったんですけど、そういうのってとっても大事で、そのバーチャルとかデジタルの技術を駆使するのか、それが時代の流れでしょうがないと思うんですけど、それはそれなんですよ、やっぱり。だから、実物をやっぱり触る、見る、体験する、それができるのが博物館と思うんですね。ですから、その兼ね合いをね、間違わないようにしていただきたいなという風に思います。だから、例えばいろんなところに黒電話の展示があったりしますが、実際デジタル電話と繋がったら面白いじゃないですか。

それから、白黒のテレビがあるけれども、ブラウン管のテレビが白黒で映ったら嬉しいですよ。こういうのが昔あったよ。でもそれは具体的にどう動いてるのっていうのがないと。あったら、よりインパクトがある。いつかの時に所蔵してる脱穀機とか、なんかいろいろなものがいっぱい、同じようなのがあるとかという話がありましたけど、もし、そういうのも具体的に動かしていいんだったら、みんなで脱穀してみましようとか、パ

ラパラこうやるんですよねとか、そういうのをやる機会を設けるとか。

だから、プラネタリウムも素晴らしいんだけど、プラネタリウム素晴らしいねで終わるんじゃなくて、プラネタリウム見て素晴らしいなと思って夜空を見たい。そこで、津久井の方へ行ったらちょっといい夜空が見れるとか、相模原ならちょっとまだかなとかね。そういう具体的なものへの繋がりというのが、学びの発展に繋がるんじゃないかなという風に思って、ぜひそういう視点ですね。

それから、バリアフリーというのをちょっと書いたんですけど、触れる展示っていうのは視聴覚障害者の方にもとてもいいと思うんですね。多分、点字の表示とかあんまりなかったような気がするが、さっきの隕石もそうですし、クマの毛皮はゴショゴショしているとかね、タッチしたらこうなっちゃうとか、そういうのも含めると、ちょっとバリアフリーって書いてあったんですけど、視聴覚障害者の方にも利用できるような博物館の展示にちょっとずつ入ってくるといいかななんて思います。

(岩野会長) はい、ありがとうございます。今の関員からのご意見は、まさに一市民の発想という具体的な発想、ご意見だと思いますね。ほんとに実現できそうな、結構いっぱい今お話されていたことですね。ですから、やはりいろいろな方の意見を聞いて、できるだけそういうものを反映するようなんですかね、そういうものを、やはり今、たった1人の人からであっても、これだけのいろいろな具体的な意見が、じゃあ、10人いたらさらに出るかもしれないということで、実際の具体的な案に向けては、ちょっと少しご検討いただけると幸いです。

(大貫(英)委員) 3ページ目のリニューアルの目標と目的のところ、(1)が目標、(2)が理念と目的になってる。この理念はいらないんじゃないかなって。これは、条例を作る時に、郷土愛を育むっていうのをここに入れ込んだ時にいろいろ議論があったのですが、これは行政がやることではなくて、市民自身がそうあってほしいというもので、文章的にここに入れてしまったんだけど。誤解を与えるところがあるので、今の情勢を踏まえると1のところと言っているんだから、あえてまたここでリニューアルの目標で、郷土を愛する心を育むというのは、これは住民がそういうことで、博物館がするものじゃないので、ここだけ分けておいた方がいいのかなというのが1つです。

あとは、郷土の歴史研究をするグループの代表としてこの席に来ているので、思いついたところをいくつか。文化財展をずっとやってきて50年

近くになるのかな、なんか随分やってきて、いろんな市民の意見を、博物館こうあるべきだっていうのを聞いていて、思いついたことだけちょっと、いくつか言います。

大きいところは、浜田さんと会長がまとめていただいたので、考古のことでちょっと言うと、例えばこのところで言うなら、例の理科学研究所の分析でね、我々、縄文人、弥生人ということを言ってきたけれど、実際、古墳の塩基配列を見ると、明らかにあそこで大きく日本人が変わってくるというのを発表していますし、ここらを視点としてきちんと取り入れた展示をしてほしいというのが、これはいくつかの市民から言われていること。

それからあと、会長も言っていましたけれど、政令指定都市にふさわしいということと言うならば、ここにも書いてあるけれども、いわゆる甲斐と武蔵、その甲斐と武蔵の中で、特に武蔵で言えば南武蔵、いわゆる多摩地方ですよね。武蔵が改変されて多摩の方に国府が行くわけだけど、いわゆる小野が一宮ですから、そういう風に考えると、相模、特に政令市でない時に博物館を作った時は境川を越えた叙述ができなかったのだけれども、境川は旧名高座川であって、兩岸がいわゆる相模の国の高座郡であって、古墳時代に大挙して人があそこに入ってきている。多摩ニュータウンの多摩境駅、あそこでね、でっかいのが出たでしょ。古墳時代の。それ以後、平安時代のいわゆる窯址のでかいのが出てますから、いわゆる高座郡としての、政令市として、他を見た中で、あの多摩の尾根を境に、武蔵、相模に両方の瓦を焼いている。これも相原だったから、橋本の住民から見ると、その辺のところをもう少し。多摩ニュータウンは発掘が終わっちゃった。町田もね、今厳しい状況で、学芸員がいなくなっちゃって、歴史の叙述ができていないんで。相模原で、南多摩、多摩を含めたいわゆる高座郡っていう視点の中で、境川、現在の境の領域、これをきちんと叙述するような視点での展示が欲しい。

これもやっぱり津久井の方の人に言われているんだけど、相模原の博物館で、所詮は高座郡の視点だよ。いわゆる下津久井とかは明らかに愛甲郡ですから、だから、そういった視点の中できちんとした叙述をしてほしい。特に津久井城の場合を考えると、津久井城は元々、これは八王子市史がね、新しい市史がきちんと叙述していますけれども、横山党が滅んだ後、あそこへ入った人たちの長井氏関係のものとして、城山にある城郭を拠点としてね、それで、相模原でもあるいは座間でも油井領として支配されてきたわけだから、その辺の、八王子を中心とする油井領を形成する人々のことと、外部を中心とするところの人々との歴史的なその展開は、きちんと叙述するような形で整理してほしい。愛川町は、やっぱり歴史の学芸

員はその辺がすごくね、今退職されて再任用でいるだけであって、非常に難しいところもあるので、その辺の視点をきちんと持ってもらえると市民は非常に喜ぶのかなと。

特に郷土史を研究してる人たちですね。そういったことから、残念なのは、民俗がこのまま展示コーナー見ると、果たして現代科学の中における民俗学の役割を果たしてるのかな。ここに鈴木重光さんは入っているけれども、例えばお月見団子。ついこの間ね、10月、我々の頃はお月見団子を下げてもらおうという風習だったけれど、今、子供たちはハロウィンをやっているんだよね。これは、その形を変えても、なんていうのかな、人間の行動っていうのは今の中にも生きているんだねっていうことが、かなり今民俗の中でも捉えられている。

あるいは、自治会が今どんどん崩壊しつつあるわけだけど、戦後、GHQの指令で自治会を全部はつぶされたんだけど、その後復活して、またさらに今崩壊の危機にある。だけど、自然災害を目的としてそういった形で地域のコミュニティを再構築すべきだというようなこと。あるいは、高齢者だけの団地だとか、相模原も相武台、相模台っていう大きな団地を持っていますけど、そういう中で、新たなコミュニティ作りっていうのは今始まっていますので、こういった視点で、都市民俗というのは今いろいろやっておられますから、社会学的な視点もあるんでしょう。そういったものをきちんと、例えば民俗の中では出していただきたいというのが民俗関係の人の気持ちだと思います。

あと一点言えば、軍都計画、まさに軍都計画から始まっての都市。それ以前の中で大きな実は問題があって、津久井の方で藤野の研究者がいろいろやっていますが、お地蔵様の首がどんどん落とされている。これって一体なんなんだろうというようなことで、いろいろ調べて、やはり明治維新の時の廃仏毀釈という問題をもう一度捉え直す必要があるのではないのかという。あるいは神社合祀、あるいは村の合併ですね。特に明治22年の時の合併、これは国家が強制的にやるわけだけど、これによって失われたものというのは、公文書館がいろいろ各村の文書の展示なんかをやっていますけれども。こういった視点も、公文書館は公文書館、博物館は博物館というのではなくて、きちんと近代化の中で、我が国が急激な西洋化をする中で、こういう言い方はどうかかわからないけど、民衆を弾圧していくわけだよね。秩父事件なんかもあるけれど、相模原でも武相困民党というのがあって、これは警官隊によって鎮圧される。津久井で、その前に土平治騒動ということがあって、これは江戸時代のことだけど。こういったものもきちんと充実化しておかないと、なんだか、旧津久井郡四町を入れ

た、展示を改変したと言うけれども、鈴木重光さんだとか、津久井城入れたぐらいで、歴史を、それで合併に合わせたのかよと言われると。この辺の問題というのは、非常にきちんと視点を持った中でぜひやっていただきたいなと思います。

あと、私の個人的なものとしては、相模原は国家政策として、人工都市として作られたのが今のこの基本なんだということ。相模原を、人口10万の都市を、原野の中で作った。当時、神奈川県は県財政を傾けて、横浜、川崎、横須賀の県会議員が反対する中、強行したわけですね。これは、当時は県知事というのは内務省の役人ですから、これは内務省と陸軍によってこれはもう路線が作られてやってきたわけで、その辺の視点も、きちんと入れておかないと、なんか相模原、東京に近いから都市化したんだねなんて言われるけど、そうではなくて、ここにはものすごい財政的な問題、あるいは地域の人たちの犠牲の中でね、都市計画、区画整理、減歩率3割以上ですからね、1町歩持って3反を失っているわけですから、そういった視点もきちんと入れて、相模原、いわゆる軍都、城下町なんだ、当時の政府が作った城下町、そこに国策としてやって町を作った。それが1つの核になって今の政令市ができていますからね。その視点もきちんと入れておかないと、相模原の特徴というのは掴めないんじゃないかなと。以上思いました。これは郷土史を研究している仲間たちから出ています。

(岩野会長) 今、幅広くですね。いろいろ要望案ということを伝えただいたと思っていますけれども、一応メモ書きはちゃんとしといていただいて、よろしくお願いしたいと。

(大谷委員) すみません、時間が足りなくて申し訳ない。もう1回いいですか。

やっぱり旧津久井が入ることで展示もすごく内容深くなるのかなと思って、すごく楽しみにしているところがあって。

あと、2ページにある、市民との協働による調査研究成果の発表の場としての展示っていうのがあるんですけども、これ、どのような形で展示されるのかなっていうのがちょっと気になっていて。例えば、定期的にそういう団体の発表をここで、常設展の中でこういうのありましたよっていう風に展示するんであれば、小さいながらもその展示の内容っていうのは常に新しい、一部であっても新しいっていう感じもあるのかな、なんて思っていて、ずっとね。それが、情報が古いまま、更新されないまま展示されるのはちょっと違うのかな、なんていうのも思っていたりしたので、ちょっとお聞かせいただければなと思います。

(事務局) そうですね。常設展の中にそういったフレキシブルに展示ができるような空間を作るっていうのは、ちょっと1つの案かなっていうところではあります。そういった案も含めて、ちょっと検討はさせていただきたいなという風には考えております。とはいえ、常設展ですので、しょっちゅう何かが全部が変わってくっていうわけにもなかなかいかないので、基本ベースは基本ベースとしてあって、そういった活動の余地ができるような、そういった仕組みなりスペースなりっていうのをちょっと考えています。

(津田委員) 手前で皆さんのご意見聞きながら思ったので、私もずっと相模原です、住んできたという立場もありますので。やはり、先ほど何名の方おっしゃってたような、デジタルはいいんだけど、やっぱり現物主義って重要だと思って。特にこの博物館に来る人たちの小さい子、あるいは小学校、中学校、高校生とか大学生と少ないんじゃないかなとか思うんですけども、小学生とかちっちゃい子って、やっぱり画面ではなくて、現物もできれば触れられるとか、本当にそこにある、ありのままの状態で見ると重要だと思って。私、ここに初めて来た時に、どでかいジオラマにすごく、内容はよくわかんなくても迫力があるって感じた。それで、何回か見てるうちに、こういうもんなんだと繰り返していく。なんか子供ってそういうところあるんじゃないかなと思うと、デジタルで調べれば出てくるとかが表示されるっていうだけだと、必ずしもここにある必要がないんじゃないかって、将来的にはそういう考えに行きついちゃうような気がするので、ここにしかない展示の仕方っていうのをぜひ追求していただくと、個人的にはなんか嬉しいなっていう風に思い。

あと、やっぱりこれは、小中学校、相模原で、公立で学んできて、最近ってその小中学校の教育の中で相模原のことってどう学ぶんですか。昔だと、僕はすごく印象的なのは、歴史の話もありましたけど、河岸段丘があって、上段、中段、下段と、それは実際散歩していると本当にわかりやすくこうなっている。そのことがわかりやすく説明されていると、それを親と一緒に博物館に来た時に、子どもが親に教える、ここがこうなっているんだよって、教えながら会話が広がる。博物館が来た人に物事を伝えるだけでなく、親子のコミュニケーションであったり、子が親に伝えるといった体験を通じて学びが深まるとか、そういう機能ってあるんじゃないかなって、そういうことが発生するような、そのためにはどんな展示がいいんだろうなということに取り組まれると素敵だなと思いました。

宇宙は宇宙研が隣にありますので、何か連携できることはぜひと思いま

すし、相模原市がやっていることだと、わかりやすいのは銀河連邦。銀河連邦があることで文化的なつながりとか、宇宙ではない、例えば3.11の時に何が起きたのかとか、そういうことも含めて日本とのつながりとか、世界とのつながりとか、何かあると思うんですよね。そこにも広がるようなアプローチもあるのかなと思いましたね。それは宇宙研も含めて大きなテーマとして扱うことができれば、ぜひ協力したいと思います。

(岩野会長) JAXAとの連携というところで、展示コーナーにできるだけ含めて、少なくとも展示コーナーが6ページにあるんですけど、これを見ているとあまり変わり映えしないかなという正直な感想もあるんですけど、ですから実際の中には、はやぶさ、はやぶさ2があったり、できるだけ博物館とJAXAの関係性が深いですよというようなアピールがあってもいいと思うんですよね。今の小学生あたりは、かなりはやぶさとかを通じて宇宙への興味を持った子も多いと思うんですよ。そういうものをもっと前面に出して、展示のアピールをすとか、そういう発想があってもいいかなと、ぜひよろしくお願いします。

他にご意見等あるかと思うんですが、そろそろ時間になってきました。何かもう一つぐらいありますか。

(佐藤委員) 一つはデジタルの良さもあえて、プラネタリウムがこれだけ人気になったのは、技術的な、飛躍的な躍進があって、今まで見えなかったもの、もしくは気づかなかったところが見えてきたところがあるので、デジタルはデジタルで活かしていかなくはいけないので、そういう視点で、楽しいということよりも、なにかこう博物館は答えを示す場所じゃなくていいと思う、探究的な学びであるとか、次への問いを、できればさっきコミュニケーションという話をもってきましたが、ここで得たものが自分で何かを学びたいと思えるような、もしくは家族で何かを話し合いたいと思うような探究的な問いの入口、来た人に何かを問いかける場であってほしいなという思いがあって、例えば天文のところはどちらかというと、過去の何万光年も前の星が今見えてるんですが、どちらかというと未来的な思考で、それ以外のところはどちらかと現在もしくは過去のものっていう。現在と過去をちょうどつなぐ人たちは今起きていて、未来にバトン繋いでいくので、過去から学び、そして宇宙によって未来的な思考を学びつつ、図書館に来て、じゃあ今自分たちが、何ができるのか、未来にはどうしていきたいのかって。よく言われるSDGsとか持続可能ってありますが、そういうのは根底にはやっぱ流れていて、過去と未来を結ぶ場所で、はてなを

持って帰れるような博物館になっていただけるととてもいいのかなっていう気がするんで、口で言うのは簡単ですけど、じゃあ具体的にそれをどうするかっていうのを、先ほど言いましたけど、市民の方のご意見もとても参考になるところもあるでしょうし、一方で専門家の方、より専門的な大学の方もいろいろいらっしゃるんで、近くには。そういう方も含めて、ある程度できたところで1回投げかけてみるっていう、意見をね、投げかけてみるのもありかもしれません。やっぱりより良い場所になるように、学びのよい場所になるようになってほしいなという思いです。

(岩野会長) はい、それではですね、まだご意見等あるかと思いますが、議題についてはこれで終了させていただきたいと思います。

あと、議題3として、その他ということがあるんですけど、何か事務局から連絡事項等ありますか。

(事務局) では、議題3その他ということで、皆様の、お手元にチケットお配りさせていただきました。ポケモン天文台の展示が、11月1日から11月12日ということで、特別展示室の方で開催をいたします。ポケモンと言えば世界的な人気のコンテンツということで、だいぶ反響もありまして、おそらくかなり博物館が混雑するような状況がございます。特に初日が3連休ということで、相当な混雑が予測されているような状況でございます。ご覧いただく時には、混雑を避けた期間に来ていただくと、ゆっくり見ていただけるのかなという風に思いますので、ご検討いただければと思います。

事務局からは以上です。

(岩野会長) ポケモンの天文台の入場料はちょっと高いと聞いているんですか、ちなみに普段入る時はどれくらい。

(事務局) 売りが一般ですと1,500円で、当日は1,600円です。

(岩野会長) 決して安くはないということですので、皆さんのお手元に2枚貴重な券をいただいたので、もし皆さんが行けなければこれを活用して、どなたか他の方でもよろしいので、できるだけ無駄にならないように来て見ていただきたい。

(事務局) 平日に限るチケットで、ただ時間は特に指定がなく、本来、チケットを

買う時には時間指定が必要なのですが、こちらのチケットについてはそのまま来た時間に入れることになっておりますので、ご来館いただければと思います。ぜひよろしくお願いします。

(岩野会長) とてもありがたいですね。はい、ありがとうございます。では、委員の皆様から何か連絡等々もしあればと思いますが。ないですかね。はい、それでは、議事を終了いたします。進行は事務局の方にお返しいたします。

(事務局) はい。ありがとうございました。以上で本日の日程は終了いたしました。最後になりますが、並木館長より改めてご挨拶をさせていただきます。

(館長) 本日の会議を持ちまして、第15期の協議会は終了となります。皆様におかれましては、2年間にわたりまして、当館の活動や運営について貴重なご意見やご感想頂戴いたしました。この場を借りまして、改めてお礼を申し上げます。どうもありがとうございました。

先ほどお話をいただいたリニューアルの件につきましては、メール等でも構いませんので、この後、お気づきの点がございましたら、こちらの方もとても役に立ちますし、皆様のご意見として、これからも引き続き検討してまいりたいと思っておりますので、ぜひいただければと思います。どうぞよろしくお願いします。ありがとうございました。

(事務局) 以上で本日の日程は終了いたしました。これをもちまして博物館協議会を閉会いたします。ありがとうございました。

次回は令和7年12月頃の開催を予定。

以 上

相模原市立博物館協議会委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	大貫 努	市立小山小学校校長		欠席
2	佐藤 和彦	県立相模原弥栄高等学校校長		出席
3	大貫 英明	市文化財研究協議会会長		出席
4	大谷 春枝	市P T A連絡協議会書記		出席
5	吉川 恵美	市女性学習グループ連絡協議会代表	副会長	出席
6	岩野 秀俊	元 日本大学生物資源科学部教授	会 長	出席
7	浜田 弘明	桜美林大学リベラルアーツ学群教授		出席
8	津田 雄一	宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所 副所長・教授		出席
9	関 明	公募委員		出席
1 0	根岸 恵	公募委員		出席